

「宗教の枠を超えた平和を」

フランシスコ・ローマ法王の訴えは

政治指導者には峻厳な警告なのだが

2015・9・29 須田 稔

9月28日付『しんぶん赤旗』は、26日フィラデルフィアの独立記念堂での約4万人に語りかけた法王の演説に触れた記事につけた見出し。「多様な宗教の信徒が平和、寛容、尊厳を一緒に唱え求めていくことが肝要だ」、また、「移民は自分の生得の品位や伝統に誇りを持つように」と督励した、と書く。

24日の、米連邦議会上下両院合同会議への演説を『赤旗』がどのように報道していたかを調べない無礼をお許しいただきたいのだが、『毎日』のワシントン特派員・和田浩明記者の報道をもとに法王の演説の注目すべき発言を紹介したい。

① 法王は、**人類の「共通の責任」**に繰り返し言及し、**紛争を悪化させる武器取引の禁止**、**難民や移民の保護**、**貧困者の援助**、**地球環境の保護**などへの取り組みを呼びかけた。

② **奴隷解放宣言**を行ったリンカン大統領や人種差別と闘ったキング牧師などに触れつつ、「正義と平和」の追求の重要性を説いた。

③ 神や宗教の名のもとに犯される紛争、憎悪、残虐行為が増えている」と、**原理主義を警告し**、**単純な二分法的思考に陥らぬよう注意を促した**。

④ **世界各地で続く武力紛争の終結のためには**、**武器取引の禁止が必要だ**と指摘、この取引で得られたカネが「罪のない人々の血に浸っている」と告発、この問題について「**恥ずべき**、**犯罪的な沈黙**」が続いていると批判、また**死刑廃止**を呼びかけた。

④ **欧州からアメリカへの入植者が現地住民を多数殺傷し土地を強奪した歴史に間接的に言及**、「過去の過ちを繰り返してはならない」と明言、移民受け入れに柔軟な対応を求めた。

「人にしてもらいたと思うことは何であれ、あなたは人にしなさい」と聖書を引用した。

⑤ 人工妊娠中絶は選挙の争点だが、「人間の生命を、

そのすべての段階で守るべきだ」。

9月25日の国連総会への演説で、僕が感じいった文言を抜き書きしよう。

① 慎みのない野望と集団化された我欲がもたらす秩序の暗黒

② 権力の制限というのは、法の概念自体に絶対無条件にある思念なのだ。

③ 利己的で際限のない権力と物質的繁栄への渴望、これが**天然資源の誤用と弱者や恵まれない人々の排除を招くのだ**。

④ 経済的・社会的排除は、人間の同胞愛を完全に否定することであり、人権と環境にたいする重大な攻撃である。それがもたらす事柄は、人間の密売、人体の器官や組織の市場商品化、少年少女に対する性的搾取、売春を含む奴隷労働、麻薬・武器の取引、テロリズムと国際的組織犯罪である。

⑤ 戦争はあらゆる権利の否定であり、環境への劇的襲撃である。もし万人に真の完全な人間発達をのぞむなら、**国家間のそして人間同士の戦争を回避するため不屈に努力しなければならぬ**。

国連憲章の前文と第1章は紛争の平和的解決と国家間の友好関係の発展を謳うが、これに背反するのが**武器の拡散**、特に核兵器のような大量破壊兵器の拡散への指向である。

⑥ **人の道徳的良心に訴えることが今日ほど必要な時はなかった**。危険は進歩や科学から生まれるのではない。現実の危険は人間から生まれるのだ。

⑦ **相互破壊の脅し**——おそらく全人類破壊の脅し——に基づく倫理や法は自己矛盾であり、**国連の枠組み全体を侮辱するものである**。国連は、行きつくところ、恐怖と不信でつながった国家連合になってしまいうだらう。

この一文は、抑止論が支配する世界、日本の『核の傘』依存政策に対する厳しい批判である。

ローマ法王が国連にいかほどの影響力を持ちうるのか知らないが、良心と知性の警告である。